

岡山県議会議員

太田まさたか

おおた



プロフィール

昭和39年生まれ 59歳

〈役職歴〉県議会副議長、県監査委員、総務委員会委員長、農林水産委員会委員長、土木委員会委員長

(選挙区:岡山市北区・加賀郡)

県政だより

 令和6年 初夏号 VOL.54

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

第七十四回全国植樹祭、成功!!

平素は私の県議会議員活動に対し温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。天皇陛下ご夫妻をお迎えしたの五月二十六日の第七十四回全国植樹祭は、三千人の参加のもと、大成功でした。この全国植樹祭開催により「豊かな森林資源の循環利用」の機運が県民のなかで高まったと確信しました。この流れを岡山県発展の力に繋げていきたいと考えています。

さて、前号で、司馬遼太郎の「洪庵のたいまつ」という文章をご紹介しました。緒方洪庵が自分の恩師から引き継いだたいまつを自分の弟子たち一人ひとりに移したことを綴らせて頂きましたが、六月四日ハレノワ大劇場で、郷土出身の歴史学者磯田道史先生

が緒方洪庵のお話をして下さいました。あらためて、コロリから国を救った医師であり、オランダ語の大家であり、近代日本を作った立役者たちを育てた教育者と様々な力を持った人で、日本の発展になくてはならない人だったことを学びました。これから、生産性向上の取組に遅れてしまった三十年の時間を取り戻すに必要な人は緒方洪庵のような人ではないでしょうか。今まで続けてきたやり方を今の時代にふさわしいやり方に変える時が来ました。これから岡山県の新しい計画を作成することになっています。緒方洪庵が自分の役割をしっかりと認識していたように、私も自分の役割を認識し、そこに新しい試みが盛

り込まれるように県議会から提言を続けていきます。そして笑顔と希望に満ちあふれる岡山県にしていきます。皆様のご健康ご多幸を心よりお祈り申し上げます。



第74回全国植樹祭にて(岡山ジップアリーナ)

岡山県議会議員 太田正孝

1 知恵を出して、岡山県の好循環を作れ

岡山県の好循環を作れ

岡山県庁の大方針は「教育再生」と「産業振興」。この二つで岡山県の好循環を作るとしてある。どうか好循環を作るのかという課題の話をする前に、今の「教育再生」と「産業振興」の方向性について、私の感じるところを書かせて戴く。

一点目の 教育再生について

県教育委員会の「教育再生」は「学力向上」、「不登校対策」等に展開できる。展開された「学力向上」は全国学力テストの結果を上げていくという目標が定められ、その目標に対して、授業改善をはじめ様々な取組がなされている。不登校対策等も同様である。結構なことをされている。不満はないのだが、ここで挙げた二つとも義務教育のことであり、主となるべきは各市町村教育委員会である。こうした県教育委員会のしていることは市町村教育委員会の支援である。敬称を省かせていただくけれども、私は緒方洪庵や、山田方谷のような人材を再び社会に送り出すんだと言って、教育再生に取り組んだ方が皆に伝わると思う。

先端技術の蓄積で活力を!



航空機エンジンの一部県産化を進める

団地の支援に回ると方針転換した。企業誘致が産業振興の一丁目一番地の政策であるはずなのに、これでは県民、市町村に「県はリスクをとらない」との間違ったメッセージとなるのではないかと、そう感じていた昨年の十一月定例県議会では企業誘致の戦略に関する質問が出た。答弁は禅問答のようになつていった。この企業誘致に関して、「市町村営産業団地の支援」もするけれども、県が前面に立つという姿勢が現れていない。

う形になってくると、「岡山県が思い描く好循環」も県の主体性が見え難くなる。こうしたことが起こるのは、私は県当局の言葉不足もあるけれども、それだけでは無い面もあると考える。各論の問題の根底にあるのは県の財政問題である。まだ、財政が上向きになっていると言えない。そのため、とくに後者における県の投資が不十分である。ここが課題である。私は事業をしながら、好循環を作るしかないと考えている。どうやったならば、それが出来るかと思案していると、一つ思い浮かんだ。前に、知人の経営者から県南に約3haの土地を探しているのを見つけてくれないかとの話を聞いたことがある。こうした話は一つや二つではなかった。今までは物流総合効率化法が未地域未来投資促進法を使って個別の対応が多かったが、まとめて市町村営の産業団地にしてしまうことはできないのか。これが出来るか、企業にも市町村にも良いことである。こうして枠組みが出来るのではないかと考える。それから、工業用水や大きな電力が必要な場合、企業から地理的条件が出された場合の時である。ここでも県が何らかの調整役をしたり、様々な支援をしたりして、課題をクリアしていくべきである。このようなパズルのような組み合わせを解決するには、企業誘致専属の職員がいらない所が多い市町村だけでは厳しい。相当な知識と経験を要する、この部分を県当局が担うべきである。このような事業を繰り返し行いながら、好循環を作るべきというのが私の考えである。

もう一つの 産業振興について

売れ残った県営産業団地の土地をほぼ売り切ると、市町村営産業

代表質問で何回も取り上げられても変わらなかった所である。こうした方針においても、いかに企業誘致を進めるかが大きな課題だと私の頭を切り替えることにした。この考えに変わるまでかなりの時間を要した。今の方針のもと、市町村主体の企業誘致には、二つのことが大切であると考える。一つ目は、市町村にもっと企業誘致の必要性を感じてもらうこと。二つ目は市町村への支援策を充実させることである。冒頭の課題の話に戻す。このように「教育再生」、「産業振興」のいずれにおいても市町村次第とい

2 太田正孝のここが言いたい!

エンターテインメントがまちづくり

現在、全国各地で、スポーツエンターテインメントを核としたまちづくりが進められている。なぜ、今、スポーツエンターテインメントによるまちづくりが盛んになってきたのか、考えてみたい。

地方自治体と「Jリーグ、Bリーグ」の連携

まず、どんなものがあるのか。最高峰は今年四月に発表された旧築地市場跡地再開発事業（事業区域は、隅田川に面した築地五丁目、六丁目にまたがる約十九haの都市地）である。事業者は「ONE PARK×ONE TOWN」で、構成メンバーは三井不動産、トヨタ不動産、読売新聞グループ本社をはじめとする大手企業十一社である。投資額は九千億円で、事業概要はスポーツイベントや大規模展示が可能な収容人数約五万人の全天候多機能施設収容のスタジアム。このスタジアムが想定している競技種目は、野球、ラグビー、サッカー、バスケットボール。スポーツ以外では、eスポーツ、MICE、音楽ライブ、コンサート、演劇等。他には、ライブサイエンス・商業複合棟、MICE・ホテル・レジデンス棟、ホテル棟、レジデンス棟、オフィス・レジデンス棟、オフィス棟、船着場ヘリポートや空飛ぶクルマのポートなどの交通インフラも整備するとしている。多くの施設が二〇三二年度に開業予定で、全ての工事は完了は二〇三八年度とのこと。

京都府は「Jリーグ」

まず京都府立京都スタジアムについて。京都府の一九九二年の「二〇〇二 FIFA ワールドカップ国内会場誘致&スタジアム建設」表明から数えると、二十八歳の歳月をかけてのスタジアム竣工であった。そして、建設費の財源は、大半を京都府が負担している。こうしたケースは最近では珍しいケースではなからうか。その代わりではないが、地元企業が年間一億円のネーミングライツを二十年間に亘る長期契約をしている。

大阪は「Jリーグ」

大阪には二つのサッカースタジアムがある。一つ目は市立吹田サッカースタジアム（呼称パナソニックスタジアム吹田）について。プロサッカークラブ・ガンバ大阪が主体となったスタジアム建設募金団体が約一〇五億円を集めて建設し、竣工と同時に吹田市が寄付。そしてガンバ大阪が指定管理者として二〇六三年三月までの約四十八年間の長期契約をしている。一方、長居球技場（呼称ヨドコウ桜スタジアム）について。二〇一七年に「桜スタジアムプロジェクト」を立ち上げ、クラウドファンディングやふるさと納税などを活用して法人三百二十三社、個人四、四八一名の総額約五十九億円の寄付を集める。第三次改修は二〇一八年シーズンオフから着工。一万八〇〇七人から二万五〇〇〇人収容のサッカー・アメフト・ラグビー専用スタジアムに二〇二一年完成。指定管理期間は三十年間。こちらも長期である。

資金調達方法の変化

こうしてみると、建設の経緯、建設の時代、地方自治体の規模、地域の企業規模並びに地域経済の大きさ等により、財源内訳は変わってくるものの、募金、企業版ふるさと納税制度等の活用をミックスさせながら、資金調達をしている所が増えていると言える。

アリーナになるJリーグ

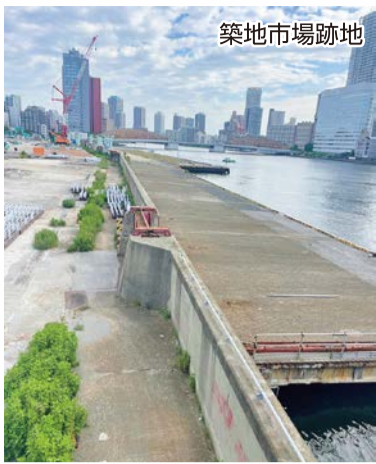
アリーナになると、Bリーグの目指す二点目のエンタメ性の追求という点が野球やサッカーとは明らかに異なるものを生む。その理由の一つが、バスケットボールは基本的に屋内であるという点だ。それも体育館でなく、アリーナとなると、アリーナ内で行われるスポーツを光や音楽、ダンスなどで演出することが出来る。プレーヤーと観客との一体感が益々高まることになる。こうしたことが地域の活力創出に繋がりは始めている。その代表が沖繩などである。これに続けと、群馬県太田市、佐賀市、船橋市に新しいアリーナが完成

エンタメ性を強くさせるアリーナの主体者は?

現在、プロチームの施設が次々と整備されている。これまでの行政主体の施設づくりから、企業版ふるさと納税等の活用による施設づくりに変わってきている。そして首都圏では企業のみによる施設づくりも始まっている。スタジアムよりも稼働率を高くすること出来るアリーナの方が、ビジネス側では利益を生みやすいことから、新しい資金調達の方法の変化を作り出しているものと考えられる。また、会場に集うブースター（ファン）からも、自分たち感動の場だから、自分が負担できるくらいのお金なら寄付をしようという人が増えてきている。もう少し、このことを平たく言うと、見せてもらうのではなく、自分たちも感動を作る担い手であるという意識を持つ人が増えたということである。そのことがサッカースタジアムや新アリーナの建設の仕方に大きく反映され、建設費の調達方法も変わってきている。昭和のやり方から令和のやり方に変わってきている。

岡山スタジアムは?

今回プロスポーツのスタジアム、アリーナの各取り組みを調べていく中で、どうすれば暮らしに豊かさを加えることができるのかについて大切なことを学んだ。それぞれの地域で考え、地域に合った手法を見つけ、実現に向けてベクトルを合わせていくことよって、その賛同者たちは施設を作るところから仲間となつて、まちづくりを行っているのである。それでは岡山はどうなのか。県と岡山市の関係がしっくりしていない。この関係が大切であるが、先行事例を参考にしながら、岡山のやり方というものを見つければいい。



築地市場跡地

東京の例は特別だ。今日、取り上げようとするのはこうしたものではなく、地方都市が取り組んでいるものである。

東京の例は特別だ。今日、取り上げようとするのはこうしたものではなく、地方都市が取り組んでいるものである。

東京の例は特別だ。今日、取り上げようとするのはこうしたものではなく、地方都市が取り組んでいるものである。

東京の例は特別だ。今日、取り上げようとするのはこうしたものではなく、地方都市が取り組んでいるものである。

東京の例は特別だ。今日、取り上げようとするのはこうしたものではなく、地方都市が取り組んでいるものである。

	京都府立京都スタジアム	市立吹田サッカースタジアム	長居球技場
呼称	サンガスタジアム by KYOCERA	パナソニックスタジアム吹田	ヨドコウ桜スタジアム
場所	京都府亀岡市（最寄り駅 亀岡駅）	大阪府吹田市（最寄り駅 万博記念公園駅）	大阪府大阪市（最寄り駅 JR 鶴ヶ丘駅）
竣工	2020年	2015年	2021年
観客数	21,600人	40,000人	25,000人
建物	地上四階	地上6階建て（最高高さ40.33m）鉄筋コンクリート造・鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造	RC造5階建
客席～ピッチの最短距離	7.5m	5.8m	5.8m
備考	屋根に約1メガワットの太陽電池を搭載、その軒裏には京都府産の無垢材を使用されている。総事業費は154億円。財源は府債が112億円、スポーツ振興くじ助成金30億円、府民スポーツ振興基金5.6億円、寄付金2.1億円、一般財源4.8億円。京都府の負担がとて大きく増えている。年間維持費確保策：ネーミングライツで毎年1億円、20年間の契約を結んでいる。屋根の太陽電池から12kWhの蓄電池に充電できるようになっている。このシステムにより、災害時に電源供給可能となっている。スポーツクライミングの国際基準を満たした屋内クライミングジムやeスポーツゾーンが併設されている。	総事業費：140億8566万円 財源：助成金3,513,326,757円（スポーツ振興くじ、国交省、環境省）、募金額は法人99億5018万円（721社）、個人6億2215万円（34,627人）。 指定管理期間：2015年9月30日から63年3月31日まで、47年6カ月間。	財源：第3次改修について、法人323社、個人4,481名の寄付が総額約59億円。 指定管理：2021年4月～2051年3月（30年間）

岡山県の民間事業活動について (最新:令和3年度)

令和5年6月27日に国(総務省・経済産業省)から公表された「令和3年経済センサス-活動調査」の産業横断的集計(確報)に係る集計結果のうち、岡山県の概要が取りまとめられ、先般公表された。

主なものを紹介する。

(1)事業所数

- ・岡山県の事業所数は78,646事業所で、全国21位。(前回21位)
- ・産業別に事業所数を比較すると、上位3業種は次のとおり。
 - 1位 卸売業, 小売業・・・19,505事業所(県全体の24.8%)
 - 2位 建設業・・・8,253事業所(県全体の10.5%)
 - 3位 宿泊業, 飲食サービス業・・・7,637事業所(県全体の9.7%)

(2)従業者数

- ・岡山県の従業者数は838,870人で、全国20位。(前回20位)
- ・産業別に従業者数を比較すると、上位3業種は次のとおり。
 - 1位 製造業・・・163,799人(県全体の19.5%)
 - 2位 卸売業, 小売業・・・160,365人(県全体の19.1%)
 - 3位 医療, 福祉・・・134,774人(県全体の16.1%)

(3)年間売上高

- ・岡山県の年間売上高は16兆8,508億円で、全国18位。(前回18位)

(4)主な産業の年間売上高

- ・特に従業者数の多い産業の年間売上高と全国順位は次のとおり。
 - 製造業・・・7兆3,503億円(全国16位、前回15位)
 - 卸売業, 小売業・・・5兆7,945億円(全国19位、前回19位)
 - 医療, 福祉・・・2兆338億円(全国16位、前回15位)

このデータを見て驚いたことは医療福祉従事者が多いこと。医療系・福祉系の学校が中四国の中で多いことも関係していると推察する。また、宿泊・飲食業については、平成28年のデータと比較して、事業所数、従業員数、年間売上も一割以上落ち込んでいる。新型コロナウイルスの影響等が大きくあったものと考えられる。岡山の産業構造を考えた支援策が必要である。

大崎クルーージェン視察

(中国電力大崎発電所内)

二月十三日

資源がない我が国や石炭火力の比率が高い中国電力にとってとても重要な実証事業が大崎クルーージェンプロジェクトである。何をしているかというと、石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業である。経済産業省と国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)に採択されている。専門用語が

並び読み難いでしょうが、お許しいただきたい。実証事業は次の「第一段階の酸素吹-GCC」、「第二段階のCO2分離・回収型素吹-GCC」、「第三段階のCO2分離・回収型-GFC」三段階に分けられている。事業費が大きい-GCC実証試験の事業費が総額約九百億円。第二



段階、第三段階を含めると、優に千億円以上の費用がかけられている。三段階の実証実験とも可能ということであったが、商用化は、コスト、利用先、周辺技術の進展などの課題があり、

まだ難しいとのことであった。具体的に言うと、分離回収したCO2を利用先として挙げられている農業においてまだ採算性が見込めない。また、大容量の燃料電池の開発が待たれているというところであった。今後の総合的な取り組みに期待したい。



島根原子力発電所視察

(松江)

二月十四日

原発一号機は廃炉という道を進んでいたが、二号機は再稼働を目指していた。この二号機は福島第一原発と同じ沸騰水型の原子炉である。加圧水型原子炉は再稼働しているが、福島第一原発と同じ沸騰水型は未だに再稼働している原発はないとのことであった。

そうしたなか、女川原発が今年五月に再稼働を予定し、島根原発も今年八月の再稼働に向けて高さ十五メートルの防波堤を整備するなどの取組がなされていた。高台からその防波堤を見ると、一号機から三号機までが防波堤で囲まれていた。ここまでしているから大丈夫ということは言えないのではないかと思います、見学しながら、幾つかの質問をした。まずは能登半島地震による志賀原発で起きたことについて、担当者の意見を伺った。その回答には、報道等から出ている火災事故の有無、漏れた油量、津波による水位変化の測定値よりも重要であると思われる点についての示唆があった。それは変圧器故障による外部電源五回線のうち二回線で断線が起きたものの、外部電源を失われなかったという事実である。なぜ五

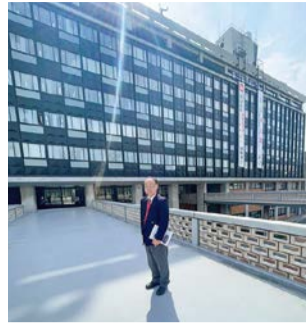


回線も準備されていたのか、私も腑に落ちたのである。そして、稼働停止をしている今も原子力規制委員会の指示に従って対策を講じているということも話して下さった。さらに、その対策であるが、基準がしばしば見直されて、その対応にはかなりのエネルギーを要しているとのことであった。こうした説明を受けながら、次に原子炉のなかまで見学することが許された(写真撮影は不可であった)。建屋に入ると、見学コースに従って、巨大な原子炉を構成しているタービンや原子炉圧力容器、原子力格納容器等を見ることが出来た。続けて、冷却水の入っていない冷却装置システムを初めて見た。底に攪拌機が設置されていて、場所によって高温にならないような工夫も施されていた。そこで核燃料の交換について訊ねた。担当者から発電所の定期検査時に新燃料と取替えるとのことであり、その一度に取替える燃料体数は全炉心燃料の1/4程度である。燃料コストについては、前日視察した石炭火力に比べて遥かに安いとのことである。この件に関して、原子力発電所の建設コスト、使用済燃料の処分費用等も入れて考えるべきである。



耐震化工事を終えた岡山県庁舎の防災指令室見学

三月十九日



今年三月に昭和三十三年に建築された九階建ての岡山県庁舎（設計は建築家前川國男氏）の耐震化工事が終わった。令和二年十月から耐震化工事が始まり、二年半の歳月がかかった。事業費は百五十七億円。

この耐震化された庁舎内を見て回った。外観は変わらないが、中身はパージョンアップしている。「窓のペアガラス変更」と「壁の断熱材使用」で外気温の影響を受け難くした。また、空調も出来るだけ部分空調が出来るようにされた。これは、私の所属する岡山県議会総務委員会で、定時以降の空調使用をしやすいように改善を求める意見があったことによる。そして、地下に食堂も出来た（運営事業者は再公募で決まった。七月中旬から営業開始予定である。）

さらに、県の防災指令室が拡張され、立派な部屋になっていった。ここで報告したいことがある。今年四月から防災組織の見直しされたのである。



岡山県防災・危機管理センター

私が主張していた防災部への昇格はなかったが、広域防災班の新設されることになった。南海トラフ地震に備える組織拡充である。令和六年度の予算案説明では、南海トラフ地震の想定を見直すことにしているとの話があった。この話に連動する力タチの組織拡充である。新設班の仕事に期待したい。

洪庵さくらまつり(近水園)

三月三十一日



今年桜が満開になったのは四月であったので、少々早い開催となった。それでも多くの人がお越しになられていて、皆で舞台でのギター演奏などのイベントを楽しんだ。さくらまつりの冠に「洪庵」の名前が入っていて、足守地区として緒方洪庵顕彰に力を入れていることを感じた。

春の交通安全運動推進大会

(イオンモール倉敷) 四月五日

運動期間四月六日～十五日が始まる前に、STU48のメンバーに参加していただいたの推進大会に参加。二〇二二年、岡山県では七十四人が交通事故により死亡していて、人口十万人当たりの死者の数は三・九四人で全国ワーストでした。今年の運動期間中にも大きな事故がありました。みなさん、気を付けて下さい。



岡山市消防操法訓練大会(桑野)

四月七日



小型ポンプ操法の部、ポンプ車操法の部で各消防団が腕を競った。テキパキとした動きで素晴らしい。現在、女性、学生の団員も活躍している。防団員の確保が大きな課題となっているが、新しい力に期待したい。

緒方洪庵生誕地訪問

四月十日



足守陣屋町にある足守プラザで緒方洪庵が好きだった鯖煮込みを食べた。こうしたエピソードを覚えて頂いて食べるとお弁当が一層おいしくなる。

洪庵弁当 緒方洪庵の好きだった鯖の煮込みが入っていました



緒方洪庵生誕地訪問

サンガスタジアム

by Kyocera (京都府電岡市) 四月十六日

このスタジアムの魅力は、プレーヤーの声、応援の声を身体全体で受け止めて、観戦できることである。そして、他にも注目すべき所がある。屋根の太陽電池から二一、〇〇〇Whの蓄電池に充電できるようにしている点である。このシステムにより、災害時に電源供給可能となっている。それから、スポーツクライミングの国際基準を満たした屋内クライミングジムやeスポーツゾーンが併設されている。ここは、スポーツクラブとeスポーツの聖地になっている。 (関連記事を二ページに記載)



犬養木堂記念館(川入)

五月十五日



平成八年から毎年五月十五日に犬養木堂記念館で、時任英人先生の講演がある。新型コロナウイルスでお休みだったので、今年が二十六年目である。今年の演題は「犬養毅の対中国観とその行動」であった。紙面の関係で全部は書けないことをまずはお赦し頂きたい。今回の講演で、印象に残った一点をお伝えしたい。

一点目は、本題の前の自己紹介のお話。それは時任先生の大学時代の指導教官だった緒方貞子さんのエピソード。内容は割愛するが、緒方貞子さんはとても面倒見の良い方であったからこそ、時任先生が倉敷芸術科学大学にお越しになったことがよく理解できた。もう一点は木堂先生の立ち位置に関して。木堂先生は四書五経をよく学び、萩生徂徠の考え方も勉強して、儒教について明らかった。そのため、中国に対して、他の政治家と違って、特別な感情を持っていたとも話されていた。しかし、日清戦争に勝利したことで、国内の多くの人と伴に木堂先生の中国への見方が変わって行く。そうしたなかでも、政治家として、アジアの平和構築に当って、中国の政治家と連携を取って、日本の未来を切り拓こうとしたというのである。この件について、当時の記録があり、それらから、革命によって中国を改革しようとする孫文らと、清朝内で立憲的に体制改革しようとする康有為や梁啓超らの間を取り持つて、日本と中国との将来の在り方を提示しようとする努力を重ねていたことが伺えることも教えて頂いた。木堂先生は日本の将来のビジョンを持ち、日本のために働いた政治家であったのだ。五・一五事件で亡くなったことは誠に残念である。今回、この話を聞いて、大局的に物事を考えることの大切さをあらためて勉強させられた。私自身、もっと大局を見た行動に変えるべく日々励みたい。

第七十四回全国植樹祭

(岡山ジップアリーナ) 五月二十六日



天皇皇后両陛下をお迎えして、一九六七年以来五十七年ぶりの全国植樹祭が岡山県総合グラウンドで行われた。テーマは「晴れの国 光で育つ 緑の心」。この式典で、高校生らによる演劇を披露。この演劇は、「森林を守る派」と「森林の木材活用派」とが意見を戦わせながら、森林とともに生きて行こうと高校生が決意をしてくいくストーリーになっていた。

岡山県は植林に熱心な県であるが、成長した森林を活用することが十分できていないところが岡山県の大きな課題である。今回の演劇は、この点について、高校生の視点からも問題提起された格好となった。一方で、豊かな緑のある山の近くで暮らせるのが岡山の魅力であることも三千人の参加者に訴えていた。

今大会を通して、木を「植える、育てる、伐る、使う」の循環を作って、豊かな緑のある山を守って行かなければならないことを考えさせられた。今年度策定予定の次期岡山県生き生きプランにも、岡山の緑豊かな森を守る計画をもっと掘り下げて盛り込むべきである。

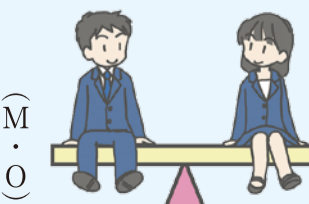


5月臨時県議会

久徳大輔議長、中塚周一副議長が誕生した。私は総務委員会と地域振興特別委員会の所属になった。地域振興特別委員会の所管事項は、企業誘致、観光振興、中山間地域振興、広域交通網の整備など。どれも県政の大きな課題ばかりである。力いっぱい頑張ります。

編集後記

女性初の裁判官・三淵嘉子さんをモデルにしたNHK連続テレビ小説「虎に翼」の放送を毎日楽しみにしている。女性が虐げられていた時代に、新しい道を切り拓いていく姿に感銘を受ける。先人のおかげで、男女平等が現在かなり進んだが、まだまだである。男女格差に関するアンケート調査が行われると、回答に「生活面（育児・介護等や体面）や「採用・就職時の扱い」、「同僚との関係」、「報酬・給与面」等で差別を感じているものも多くある。この差別をなくすことこそがとて



(M・O)